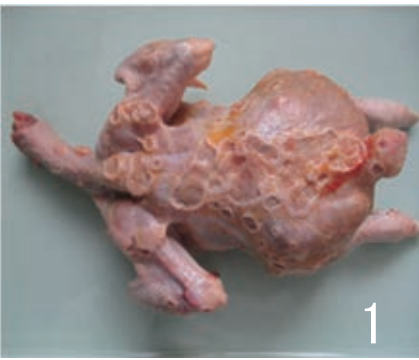
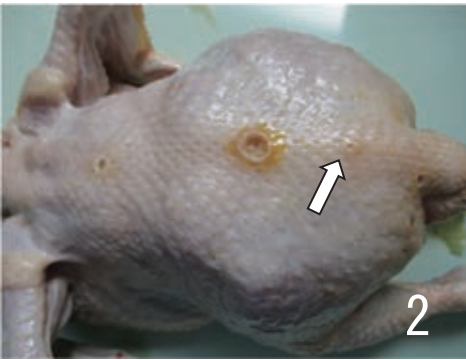
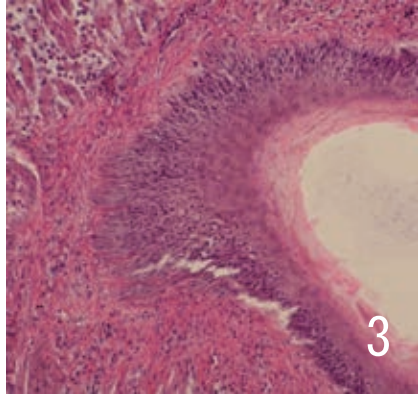
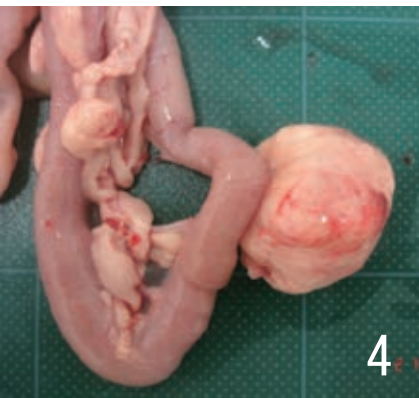
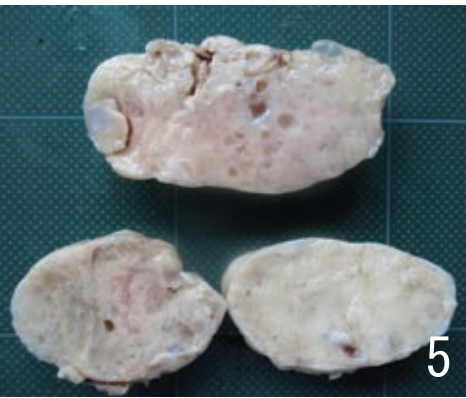
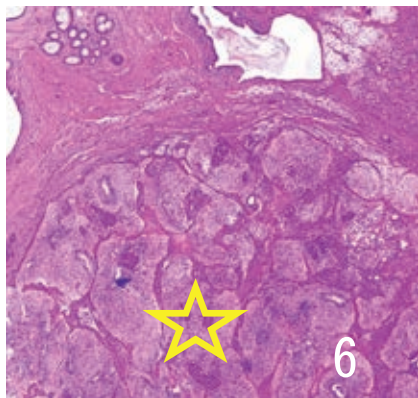


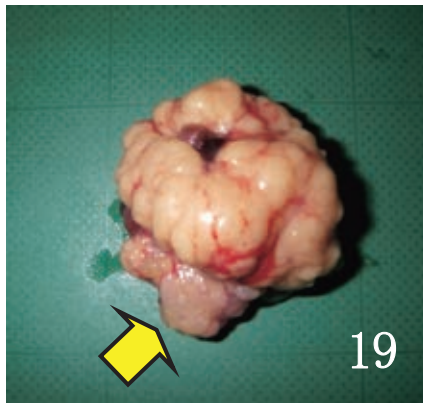
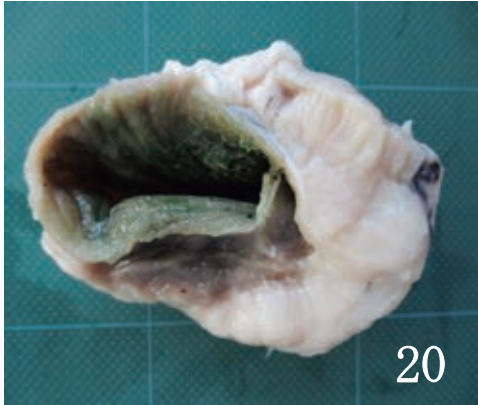
疾病 (異常)	<h2 style="text-align: center;">28 腫瘍</h2>
肉 眼 所 見	<p>1 鳥角化棘細胞腫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽包上皮細胞を起源とする良性腫瘍である。 ・病巣は羽包を中心に形成され、腰部、大腿部、胸部及び下腿の皮膚に認められることが多い。 ・多くの病巣は円形であり、噴火口状の潰瘍性及び半球状の結節性に分類され、ときに病巣の融合により大規模病巣が形成される。 <p style="margin-left: 2em;">参考文献</p> <p style="margin-left: 2em;">1 Hafner S, et al : Avian keratoacanthoma (Dermal squamous cell carcinoma) in broiler chicken carcasses, <i>Vet Pathol</i>, 30, 265-270 (1993)</p> <p>2 奇形腫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胚の発育初期に組織の一部が迷入等により原基の影響から逃れて分化増殖した細胞性腫瘍であり、2つ以上の胚葉由来組織により構成される。 ・精巣または卵巣から発生するが、しばしば体腔腫瘍として認められる。 ・腫瘤型と嚢胞型の2型があり、前者は被膜を有する淡黄色球状～楕円球状、弾力性を有し、割面上、緻密な組織により構成され、しばしば小嚢胞や小軟骨組織が混在している。嚢胞型では内腔に漿液を満たし、嚢胞壁から正羽が萌出している。 ・雄に好発し、胎生期の低温と低酸素供給により発生が増加することもある。 <p style="margin-left: 2em;">参考文献</p> <p style="margin-left: 2em;">1 Reece RL: Teratoma, <i>Diseases of poultry</i>, 12th ed, Saif YM et al eds, 601-602, Blackwell Publishing, Ames (2008)</p> <p style="margin-left: 2em;">2 吉島尚志：ブロイラーの腹腔内に見られた奇形腫，<i>鶏病研報</i>，50，23 (2014)</p> <p>3 血管腫、血管肉腫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小血管や毛細血管の内皮細胞または内皮細胞への分化能を有する未分化間葉系細胞を起源とする腫瘍である。 ・血腫様構造物として様々な組織、臓器に散発～多発している。 ・十二指腸を含む小腸と膀胱の各漿膜、腸間膜、皮下組織に好発し、肝臓、脾臓、肺に発生することもある。 ・発生にJ亜群トリ白血ウイルス感染が関与している。 <p style="margin-left: 2em;">参考文献</p> <p style="margin-left: 2em;">1 Fadly AM, et al : Hemangioma, <i>Diseases of poultry</i>, 12th ed, Saif YM et al eds, 537-538, Blackwell Publishing, Ames (2008)</p> <p style="margin-left: 2em;">2 村瀬真子，他：食鳥検査でみられたブロイラーの血管腫の病理組織学的研究，<i>鶏病研報</i>，33，228-232 (1997)</p>

肉 眼 所 見	<p>4 線維腫、線維肉腫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線維芽細胞を起源とする腫瘍である。 ・境界明瞭で硬固な白色～淡黄色塊として皮下組織や肝臓に好発するが、他の体腔臓器にも観察される。 ・発生にJ亜群トリ白血ウイルス感染が関与している。 ・診断にシュワン細胞腫及び末梢神経鞘腫瘍との鑑別が求められる。 <p>参考文献</p> <p>1 Fadly AM, et al: Fibrosarcoma and other connective tissue tumors, Diseases of poultry 12th ed, Saif YM et al ed, 540-542, Blackwell Publishing, Ames (2008)</p> <p>2 山口哲司：成鶏の臀部に認められた末梢神経鞘腫瘍，鶏病研報, 48, 300 (2012)</p> <p>その他、卵巣に卵巣腺癌、筋胃を含む消化管の平滑筋層に平滑筋腫、平滑筋肉腫、大腿筋や下腿筋に横紋筋腫、横紋筋肉腫などがみられる。</p> <p>参考文献</p> <p>1 前田 稔, 他：日本の食鳥検査における鶏の腫瘍，鶏病研報, 52, 219-225 (2016)</p>
------------------	---

廃棄等の措置の根拠	別表第10（全部廃棄）又は第11（部分廃棄）
-----------	------------------------

 <p>1</p>	 <p>2</p>	 <p>3</p>
<p>鳥角化棘細胞腫：広範囲の背側皮膚に噴火口状病巣が多発し、癒合により大規模化した病巣も混在している。</p>	<p>鳥角化棘細胞腫：肩甲骨間と腰部に潰瘍性、腰部後方に結節性病巣（矢印）が存在している。</p>	<p>鳥角化棘細胞腫：羽包は拡張し、同上皮細胞が過形成性及び腫瘍性に増殖している。</p>
 <p>4</p>	 <p>5</p>	 <p>6</p>
<p>奇形腫（腫瘤型）：被膜を有する楕円球状腫瘤が腸間膜に付着している。</p>	<p>奇形腫（腫瘤型、ホルマリン固定後）：緻密な組織に多数の嚢胞、軟骨、骨組織が混在している。</p>	<p>奇形腫（腫瘤型）：中枢神経組織（星印）、上皮が内張りする管状組織、嚢胞、結合組織等が観察される。</p>

 <p>7</p>	 <p>8</p>	 <p>9</p>
<p>奇形腫（嚢胞型）：直径5cmの球状嚢胞は腸間膜と小腸漿膜に付着している。</p>	<p>奇形腫（嚢胞型）：剖面では、内腔に漿液を満ち、嚢胞壁から多数の正羽が萌出している。</p>	<p>奇形腫（嚢胞型）：重層扁平上皮と結合組織より成る嚢胞壁に、羽軸を内包する羽包様構造物が存在している。</p>
 <p>10</p>	 <p>11</p>	 <p>12</p>
<p>血管腫：空腸漿膜及び腸間膜に血腫様構造物が多発、融合している。</p>	<p>血管腫：皮下組織に大小各種の血腫様構造物が多発している。</p>	<p>血管腫：肝臓の実質に大小各種の血腫様構造物が多発している。</p>
 <p>13</p>	 <p>14</p>	 <p>15</p>
<p>血管腫（ホルマリン固定後）：No.12の剖面を示し、肝臓実質に大小各種の血腫様構造物が多発している。</p>	<p>血管腫：肺被膜下に直径0.5～3mmの血腫様構造物（矢印）が多発している。</p>	<p>血管腫：腸間膜に大小各種の血管様構造物と緻密組織から成る腫瘍組織が増殖している。</p>

 <p>16</p>	 <p>17</p>	 <p>18</p>
<p>線維肉腫:腰部の皮下組織に半球状に増殖した腫瘍組織が体表に露出している。</p>	<p>線維肉腫:淡白色の硬固な腫瘍組織は肝臓実質に浸潤性に増殖している。</p>	<p>線維肉腫:紡錘形腫瘍細胞の増殖により、筋線維は圧迫されて萎縮、変性、消失している。</p>
 <p>19</p>	 <p>20</p>	 <p>21</p>
<p>卵巣腺癌:卵巣(矢印)に表面が不規則に凹凸する黄白色腫瘍が形成されている。</p>	<p>平滑筋肉腫(ホルマリン固定後):筋胃の平滑筋は浸潤性に増殖する白色腫瘍組織により置換されている。</p>	<p>卵巣腺癌:腫瘍組織(星印)の増殖により、固有の卵巣組織は圧迫され、菲薄化している。</p>